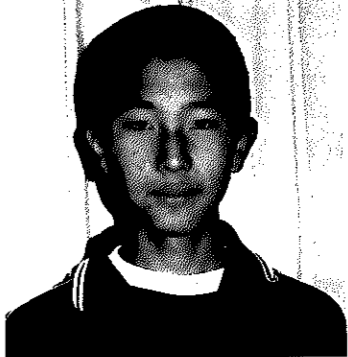


県道を拡張してください

長谷川宏幸君 白井二年

白井の街中を走る道路は、幅が五メートルと狭く、バス二台がやっとすれ違いができる程度です。車がすれ違ふときや駐車しているときは、歩行者は進めません。冬は降雪のため、道幅はもっと狭くなります。スリップ事故が起りやすくなるどころへ、小学校の児童も通学してくるわけです。私たちはもちろん、この道路が初めての人は、とても怖い思いをすることになります。また、この道路を平気で横断する人が多くいます。これは道幅が狭いため、渡ろうと思えば横断歩道を使わなくても、すぐ向こう側まで行けるためです。

今まで大きな事故がなかったのが不思議なくらいです。交通量も増えてくると思うし、事故を起こさないためにも、一日も早く広い道路にしてください。

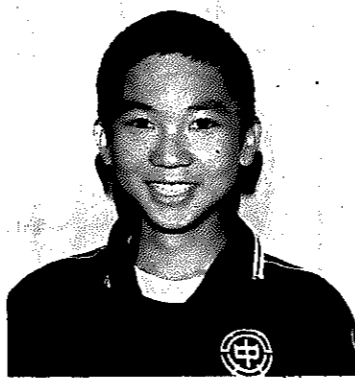


長谷川君

白根市の人口増の見込みは

五十嵐清隆君 白井二年

白根市は、転入する人も多いが転出する人も多い。また、生まれる人も多いが死亡する人も多くいます。まるで、白井中学校の増えない生徒数のようです。



五十嵐君

育館がなお狭くなり、急いで校舎を新築しなければなりません。日本の人口が急速に増加しているのに、白根市の人口がなぜ増えないのか疑問の一つです。急に増えたら大変ですが、これから先、人口は急速に増加していくのか、それともゆっくり増える傾向なのかを教えてください。

それから、一中と他の中学校との生徒数のバランス問題です。スポーツ大会などは、ほとんど一中に優勝をさらわれてしまっています。生徒数が多いからなのでしょうが、とてもやさしいです。それで、一中を分割して第二中学校を建てるとか、それが無理なら、他の中学校に一中の生徒をちりばめ、バランスをとるようにしてください。

地区にも体育施設の建設を

武藤 朝美さん 白井二年

中学生として一番望むことは、スポーツ施設の整備です。今、一番困っているのは広い場所がないことです。

一中の近くに総合体育施設ができるという記事を、広報しろねで見たことがあります。が、そうなれば各種の大会などに利用でき、練習にも便利です。しかし、そこは私たちに毎日の部活動とはあまり関係のない場所です。なにか遠い存在に映るので、そこで、地域の人たちが日常的に利用できる地区の体育施設を、ぜひ建設してほしいと思います。



武藤さん

十七人、就職者百三十二人となっています。私は進学率は三三%くらいと考えていたのです。しかし、意味もなく進学することに賛成するのではありません。この数字だけではよくわかりませんが、もっと考えなくてはならないような気がします。

校舎を改築してください

斉藤 令子さん 白井三年

白井中学校は歴史のある校舎ですが、老朽化して、誰もが満足していません。不満の例を上げると、まず窓のことです。一部



斎藤さん

取り替えられました。が、強い風が吹くと透き間から風が入って、廊下や体育館がほこりで真っ白になり、掃除が大変です。それに、台風などによる危険性もあります。また、理科室などはプレハブ校舎ですから、冬はとても寒く、反対に夏はすごく蒸し暑くなります。

それから体育館が狭いため、部活動ではみんなが広々と練習できる余裕がありません。グラウンドやプールなどの設備面でも、不満だらけの実態です。だから一日も早く白井中学校を改築してください。

阿部君の意見には

緑のマスタープランを策定

一昨年、約三百万円のお金で「緑のマスタープラン」を策定しました。これは、将来にわたって白根市の緑化行政をどのようにつらたらしいかを、専門家にお願ひして調査してもらったわけです。この計画の目標年度は七十五年度ですが計画内容に添って、これからは継続的に緑を確保していくとともに、増やしたいと思っています。

また、空き缶、ごみ問題はよい提案をしてももらいました。大勢の人たちがもう少し公德心を持ってくれれば空き缶の散乱、ごみの不法投棄などはなくなるんですが。この夏休みに大郷地区の小学生が自発的に空き缶拾いをしたと聞いています。みんなからもこの子たちのような気持ちを持ち、自分の周囲を清潔にするよう、心がけてほしいものです。

石附さんの意見には

粘り強い運動をもつて

校内暴力の防止ということを取り上げてもらい私も力強く思っています。「生徒自身がしつかり……」との意見は適切だと思います。

白根市内の状況では、校内暴力といわれるケースはありませんが、万引行為が若干あり、しかも増えてきています。市としてもその防止対策をいろいろと考えているのですが、決め手はありません。

七千人に想定しています。昭和五十五年の国勢調査人口のペースからすると、今の段階では若干下回る状況です。

ただ、北部地域における新工業団地の設置計画や、宅地造成計画など一連の施策が軌道に乗れば、六十年での三万七千人は難しいかもしれません。それに近い実績が上がり、将来的にはむしろ多い人口となるのが期待できます。

白井中と一中生徒のバランスの問題で、「人口の再配置」という意見が出されましたが、これはできないことです。

それなら他の方法ではどうかというところ、白井・大鷲・庄瀬中の三校を統合するとして「白根市立小中学校の適正配置計画」があります。しかし、この計画については学校施設整備審議会にたずねた結果「北部地域の開発を見きわめ、研究するように」との返事をいただいています。

このように社会の情勢は変わりつつあるわけで、基本通りにするか、あるいは北部の状況を考えていくか、今しばらくその推移を見ていかなければなりません。

武藤さんの意見には

ちょっと難しい提案です

各地区に専門の体育施設を一つずつ設けるというわけにはいきません。そこで、小学校、中学校の体育館などを開放して利用してもらっているのが実態です。

白井地区の場合は、小中学校のグラウンド併用問題や、先程説明した学校整備計画な

長谷川君の意見には

五十五年度から用地を買収

街中を走る道路は県道ですので、県の改良計画に沿って、五十五年度から仕事は進められています。計画延長は二百メートル、この間を幅員十・五メートルに整備していくものです。

この事業にかかる費用は、五十七年度の試算で九億五千万円で、その半分以上が用地補償費です。現在の仕事は用地の買収が主ですが、道路整備の場合は用地買収が済めば、九割方は仕事ができることになります。また、この道路の雪の問題ですが、地区の皆さんから私のところへ「消雪パイプを伏せてくれ」との陳情がありました。県道です。市が実施するわけにはいきませんが、「どうしても必要な場所だから考えてほしい」と、私の意見を付けて知事へ書類を出しています。

五十嵐君の意見には

見込める人口の増加

総合計画では昭和六十年の人口を三万

どの問題もあり、社会体育の関係に活用しにくい環境にあることは十分わかっていきます。しかし、基本となるその問題を先に解決しなければならぬ現在では、ちょっと手のつけられない提案です。

白根高校生の進学、就職については、白根高校に「進学率をもっと高めなさい」とは言えないことです。

それはやはりそこに学ぶ生徒自身のがんばりだと思えます。市内の中学生からはできるだけ多く白根高校に入ってもらい、そしてしっかりと勉強して、名を高め、伝統を築いていってほしいと願っています。

斉藤さんの意見には

統合問題と関連します

学校の改築問題については、斉藤さんをはじめ二、三人の人たちからも出されましたが、先の五十嵐君のところでも答えたように、学校の適正配置計画として基本的事項があるわけですので、これらの見通しを見きわめながら解決していかなければなりません。

多額のお金をかけて改築し、それをまた壊さなければならぬというようなことは避けなければなりません。

しかしながら、必要な営繕関係の予算は計上しなければなりません。今年白井中からは、体育館の修繕、床板の張り替え、窓サッシの取り付けなどに千五百五十万円の要求が出されています。これらは計画的にや